

演題：「こころ」を量的に扱うために知っておきたい心理学的・統計学的事項

抄録本文

近年、医学・医療の研究や実践で対象のこころや認知のような心的事象を取り扱うことが増えてきました。その中でも症状や健康状態について患者が直接報告したものは患者報告式アウトカムと呼ばれます。患者報告式アウトカムの多くは他者が直接的に観察することはできず、健康関連尺度や心理尺度（以下「尺度」）を用いて評価します。尺度を用いた測定では、直接的には観測できない心的事象を「構成概念」と位置づけ、直接測定できる評価項目を以て間接的に構成概念を測定します。そのため、尺度は本来自分が観測したい構成概念を評価しうるものである必要があり、尺度を開発する過程で validation を行う事でそれを担保します。

本セミナーでは、尺度を開発するときや尺度を用いた研究を行うときに理解しておくべき心理学的、計量心理学的、および統計学的事柄について概説します。また、尺度開発のうち、因子分析に関する事柄を実演します。